

## 中北部エリア

大野地域、中里皆瀬地域、柚木地域

### 概要及び特性

中北部エリアは大野地域、中里皆瀬地域及び柚木地域を対象とし、人口が約3.5万人、面積が約59.83 km<sup>2</sup>、人口密度が583人/km<sup>2</sup>です。人口密度は市平均（612人/km<sup>2</sup>）を若干下回っています。大野地域は宅地が集積しています。他の地域も国道、鉄道沿いに宅地が集積していますが、中里皆瀬地域は、山林等の自然が多くなっています。柚木地域は、大部分が山林等の自然となっています。エリア全体としては、農地や山林等の自然が多く、中心部に宅地等が集積しており、公共施設も集積しています。

大野地域は、主要幹線道路が交わり、鉄道及びバスといった公共交通機関が充実しており、佐世保中央地域等への交通の要所となっています。中里皆瀬地域は、従来の幹線道路に加え、自動車専用道路及び相浦中里ICが開通したことで、佐世保中央地域及び長崎方面への交通利便性が向上しています。

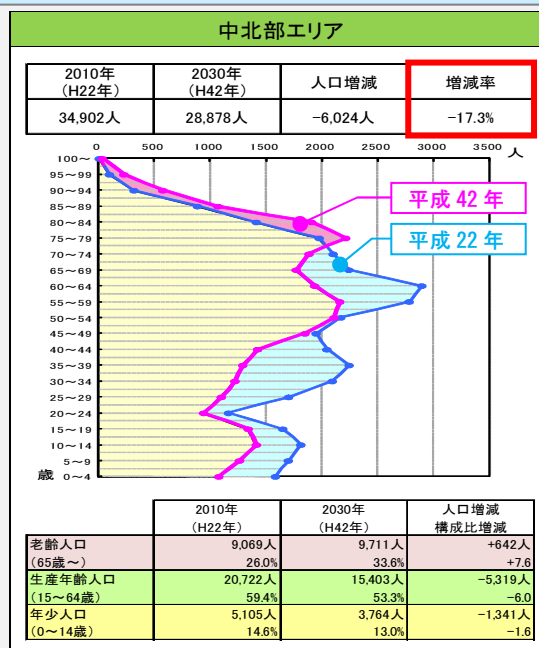
3地域の中でも、大野地域の支所周辺から労災病院周辺にかけた市街地は、他の地域の行政サービスや都市活動を補完した拠点（地域核）となっています

### 人口変化

エリア全体の人口は、減少傾向にあります。大野地域及び中里皆瀬地域は横ばいとなっていますが、柚木地域は減少しています。（第1章P10を参照）

今後の人口推計をみると、大野地域が13%減少、中里皆瀬及び柚木地域は20%以上減少すると予測され、今まで以上に減少することが予測されます。（第1章P11を参照）

人口構成をみると、高齢人口が横ばい傾向、生産年齢人口及び年少人口は減少傾向となっています。20年後の高齢人口比率を地域別でみると、大野地域及び中里皆瀬地域は32~33%となっていますが、柚木地域は43%まで増加すると予測されます。（第1章P12,13を参照）



※平成22年は、年齢不詳人口を5歳階級ごとに按分しているため、総人口と年齢階層毎の合計値とは一致しません。

### 公共施設の配置状況及び整備状況

#### 【配置状況】

各地域の公共施設の多くは、国道204号線及び国道498号線沿い、又は、松浦鉄道沿いに形成された住宅地等に、集中して配置されています。

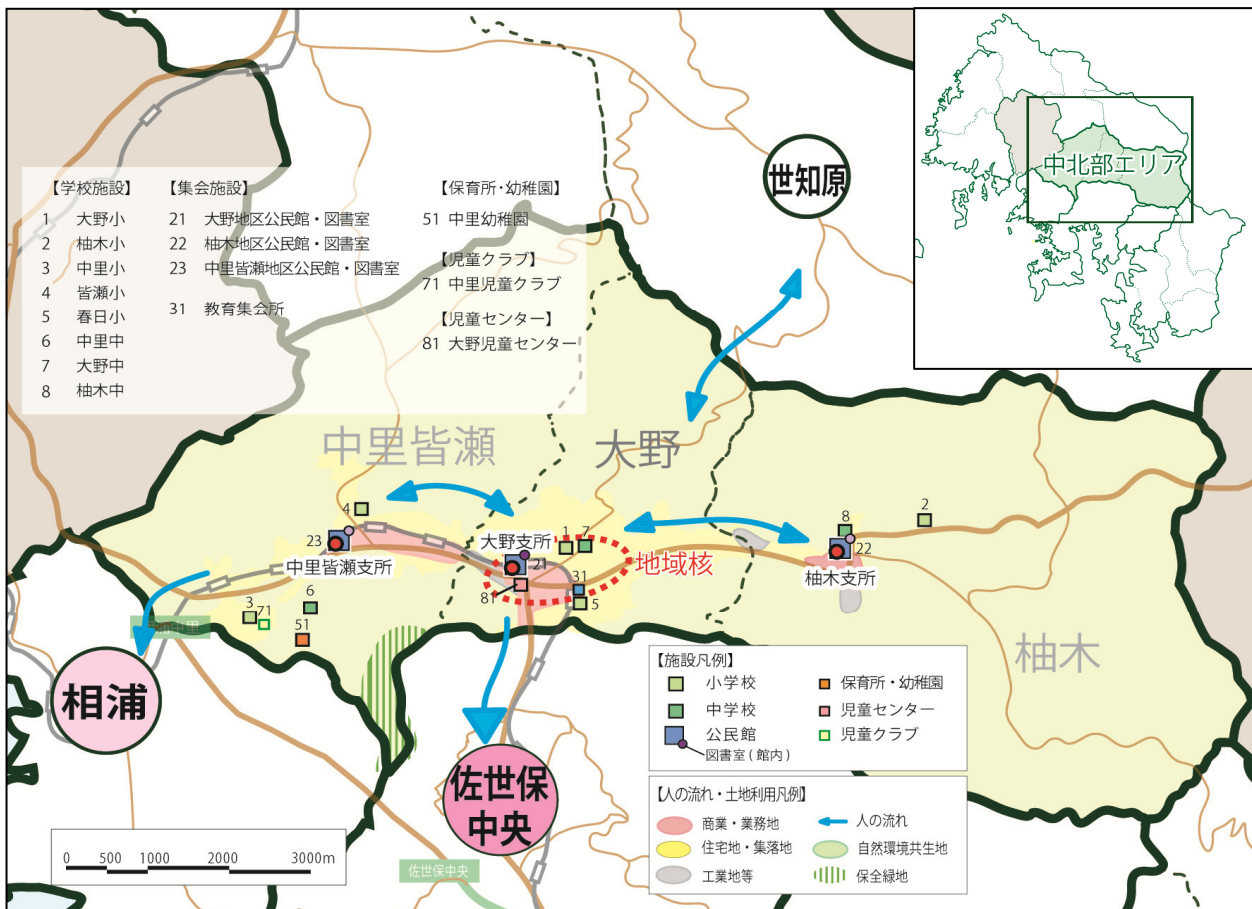
#### 【整備状況】

エリア内の公共施設は延15.2万m<sup>2</sup>と、市全体の約12%を占めており、エリア住民1人当たり4.4m<sup>2</sup>となっています。そのうち、市営住宅（約47%）及び学校教育系施設（約34%）で、全体の約81%を占めています。築年別整備状況を見ると、旧耐震基準の建物が約46%となっており、学校教育系施設が多く、他に支所や地区公民館も老朽化が進んでいます。新耐震基準の施設をみると、市営住宅が多くなっています。

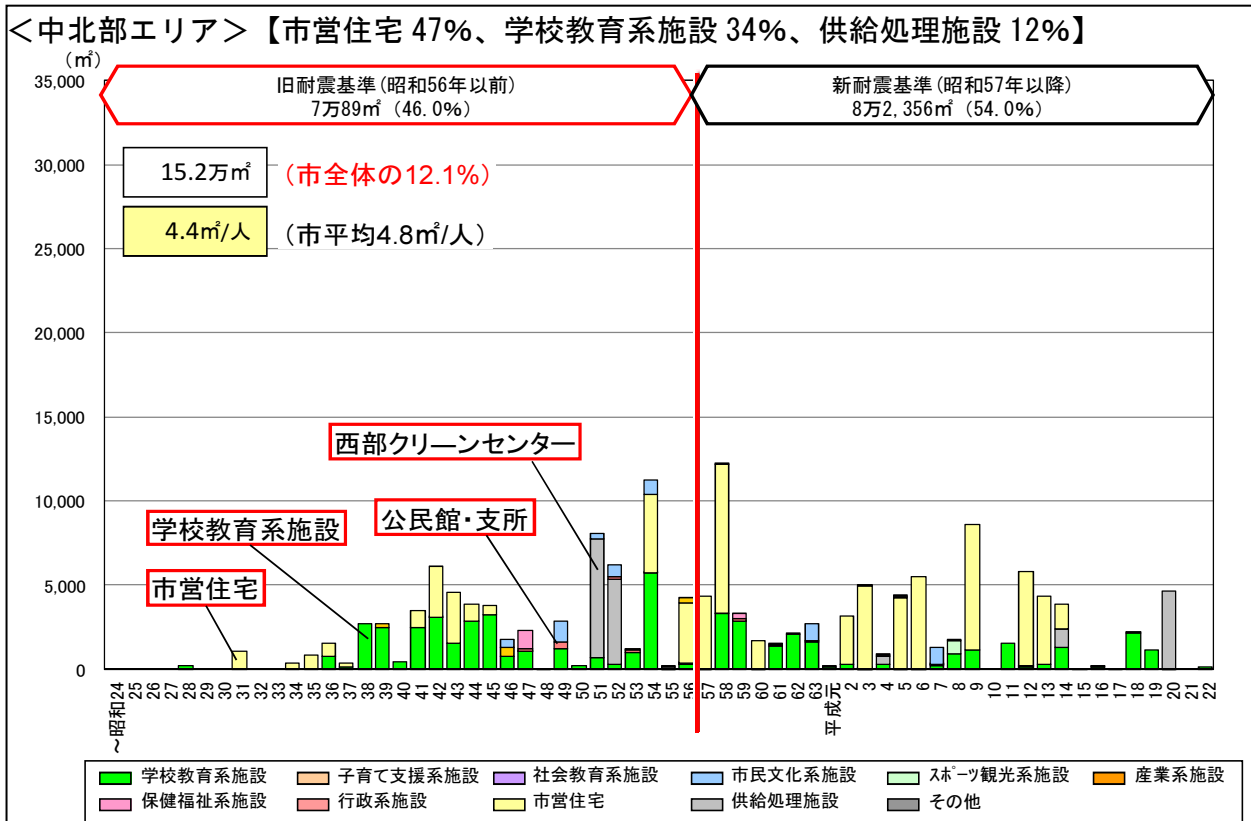
図表 配置図（中北部エリア）

※配置図には主な施設を掲載しています。

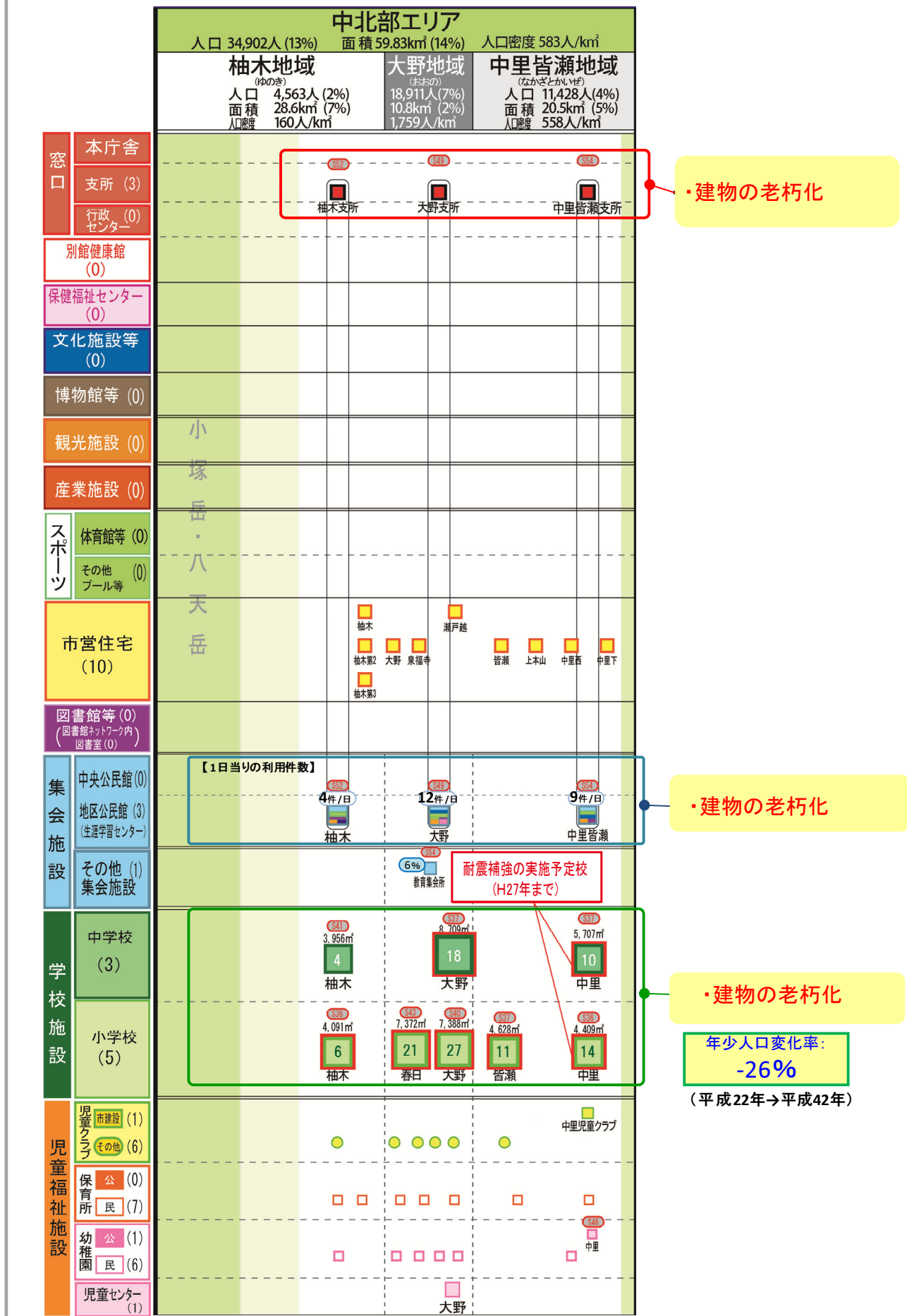
※「人の流れ」は、都市計画マスタープランの都市軸等とは異なり、一般的な人の流れを示すものです。



図表 築年別整備状況



図表 地域実態マップ



## 主な公共施設の状況

### 【公民館・生涯学習センター】

公民館・生涯学習センターは、中学校区に1施設を基本に整備しており、本エリアには、大野地区公民館、中里皆瀬地区公民館、柚木地区公民館の3施設があります。3施設とも、今後耐震化及び建替え又は大規模改修等の老朽化対策が必要となっています。

また、利用状況を見ると、市全体の平均（1日当たり6件）と比べ、比較的高くなっている施設もありますが、今後、部屋ごとの稼働状況を的確に把握し、利用ニーズが高い利用機能を把握するなど、施設ごと及びエリア全体での利用者ニーズを把握することが必要です。

### 【小学校・中学校】

学校施設は、小学校が5校、中学校が3校の計8校あります。このうち、平成27年度までに耐震化の実施を予定する学校が7校あります。

また、10学級を下回る小規模校は2校あります。今後の年少人口変化をみると、約26%減少することが予測されており、さらに児童生徒数が減少することが予測されます。

### 【支所】

大野支所、中里皆瀬支所及び柚木支所は、全て地区公民館と併設しています。行政窓口としては、大野支所は比較的利用件数が多くなっています。

## 今後の検討の視点

### 【耐震化・老朽化への対応】

本エリアでは、公民館（支所併設）、小学校・中学校及び市営住宅等、本エリア内の約46%の施設に対して、今後耐震化及び建替え又は大規模改修等の老朽化対策が必要となります。本エリアでは、国道204号線及び国道498号線沿い、又は、松浦鉄道沿いに公共施設が集中して配置していることから、地域ごとに、周辺の公共施設の老朽化状況を踏まえ、同一機能との集約化や他の機能との合同化による効率化を検討するとともに、建物のライフサイクルを通じた効率化を検討する必要があります。

### 【市民ニーズに応じた施設配置・整備への対応】

公民館の部屋ごとの稼働状況を把握し、利用機能ごとのニーズを把握する必要があります。また、市営住宅では、高齢者向けの住宅需要が増加しています。今後は、用途ごとのニーズを的確に把握し、利用状況を向上させると共に、そのニーズに応じた施設配置・整備を検討する必要があります。

### 【人口構成の変化等による施設の有効活用】（地域単位の人口変化は第1章P7参照）

本エリアでは、今後人口が約17%減少すると予測され、地域ごとでは、大野地域が約13%減少すると予測される一方、柚木地域では約26%減少するなど、地域によって異なります。これらの特性を踏まえ、保有施設の効率的な施設整備や利用機能の見直しなどによる施設の有効活用を検討する必要があります。有効活用の方策としては、建替え等を行う際に、周辺の公共施設の老朽化状況を踏まえ、同一機能の集約化など、多様な方策の検討が求められます。